

## 川満信一氏を悼む

高良勉

間に合わなかった。2カ

月ぐらい前から、電話をし

ても川満信一は取らなかつ

た。気になり、友人の仲里

効に様子を聞くと「寝たき

りになっているらしい」と

言う。来週にはお見舞いに

行こうとしていた矢先、訃

合いたかった。

川満信一は、文字通り戦

後沖繩の思想家、詩人、ジ

ャーナリストの巨星であつ

た。私は、1978年から

今日まで46年間ご指導、ご

親交いただいた。まず、78

年に『川満信一詩集』を恵

と感動を受けた。そして翌

79年、私の第1詩集『夢の

起源』に推薦・跋文の「詩

の当面する困難性」を書い

ていただいた。私は、川満

の詩と詩論から「詩には思

想が盛り込めるし、共生の

思想を表象すべきだ」と教

わった。

その後、川満と私たちは

同人誌「シヨンガナー」を

発刊したり、詩誌「KAN

A」に寄稿してもらったり

の思想」は常識となるま

で、拡がっている。

そして、私たちは共に

『琉球共和社会憲法の潜勢

力』を出版した。私の思想

的クサティ（腰当て）に

は、いつも川満信一、新川

明、岡本恵徳、島尾敏雄の

著作と思想があつた。この

沖繩戦後思想の重要な脈

から学び、触発され、私は

本当に幸運だつたと思う。

ジャーナリストとしての

たこと。これは、私もあや

かりたいものだ。そして、

驚くべき事に、92歳まで現

役でバリバリで詩や評論の

原稿を書き公表していたの

である。この点こそ、真似

できるか、恐れ多く心もと

ない。川満は、23年7月の

未来社雑誌「未来」に「近

代化と同化を考える」とい

う注目すべき長い評論を発

表している。

川満信一は、詩人・批評

家として現役のまま倒れ逝

去した。沖繩では、あまり

知られてなくて残念だが、

日本の詩誌で最高峰と評価

される月刊誌『現代詩手

帖』で23年の9月号から現

在まで連載詩「言葉破れて

国興るか」を9回にわたつ

て執筆している。「ぼくは

秘かに情を込めて／洗骨の

儀式を行う」（連載詩・7

「ことばの洗骨」）。お

お、みことな詩と思想の一

生よ。どうぞ、安らかにお

眠り下さい。うとうと

う。合掌。（敬称略）（詩

人・批評家・沖大客員教

# 見事な詩と思想の一生

報が入ってきた。残念であ

る。享年92歳。もつと語り

贈していたとき、読んで身

震いするくらい衝撃

した。そして川満は、個人

誌「カオスの貌」を200

7年に創刊し18年の12号ま

で出版し続けた。

私は、川満の思想はま

『沖繩・根からの問い』よ

り強い影響を受けた。琉球

文化と思想の「根（ニーゴ

ートウ）」を探求して表現

する事の重要性を教えられ

た。続いて、圧巻だったの

は『沖繩・自立と共生の思

想』であった。川満の本書

によって、今日では「共生

の思想」は常識となるま

で、拡がっている。

そして、私たちは共に

『琉球共和社会憲法の潜勢

力』を出版した。私の思想

的クサティ（腰当て）に

は、いつも川満信一、新川

明、岡本恵徳、島尾敏雄の

著作と思想があつた。この

沖繩戦後思想の重要な脈

から学び、触発され、私は

本当に幸運だつたと思う。

ジャーナリストとしての

川満に關しては、書く紙幅

があまりない。何よりも、

「沖繩タイムス」紙の学芸

部や『新沖繩文学』の編集

長として、私に多くの原稿

執筆を依頼し鍛えてくれ

た。新川明や上間常道たち

と『沖繩大百科事典』を企

画・編集・刊行したのも特

筆される。

私は、川満信一の生き様

に憧れ、恐れてきた。ま

ず、友人たちに恵まれ、酒

を楽しみ92歳まで長命でき

たこと。これは、私もあや

かりたいものだ。そして、

驚くべき事に、92歳まで現

役でバリバリで詩や評論の

原稿を書き公表していたの

である。この点こそ、真似

できるか、恐れ多く心もと

ない。川満は、23年7月の

未来社雑誌「未来」に「近

代化と同化を考える」とい

う注目すべき長い評論を発

表している。

川満信一は、詩人・批評

家として現役のまま倒れ逝

去した。沖繩では、あまり

知られてなくて残念だが、

日本の詩誌で最高峰と評価

される月刊誌『現代詩手

帖』で23年の9月号から現

在まで連載詩「言葉破れて

国興るか」を9回にわたつ

て執筆している。「ぼくは

秘かに情を込めて／洗骨の

儀式を行う」（連載詩・7

「ことばの洗骨」）。お

お、みことな詩と思想の一

生よ。どうぞ、安らかにお

眠り下さい。うとうと

う。合掌。（敬称略）（詩

人・批評家・沖大客員教

授）

インタビューに答える川満信一氏＝2007年5月24日午後、那覇市天久の琉球新報本社

